



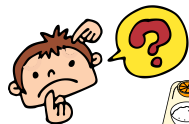
柳井市立柳井小学校 学校だより

はつらつ柳井っ子

令和8年7月17日

全校児童数487人

★「子どもが輝く学校」をめざしていきます。



好奇心を刺激し、考えるきっかけを

校長 藤村 信之

子どもたちが授業中に見せる、「なぜだろう?」「どうしてだろう?」という姿は、学びの質を充実させるためにとっても大切な要素の一つで、そのことから学習が自分のこととして進んでいきます。

各学級では、様々な教科でこのような姿を大切にして授業を行っています。



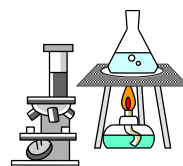
【食品の産地を表に整理している様子】

例えば、5年生の社会科「暮らしを支える食料生産」の授業では、導入で給食の献立表から食品の産地に着目させました。その後、一人ひとりに広告のチラシを渡して他の食材について産地を調べていきました。そして、食品の産地を地方ごとに整理して一覧表に示し、産地の傾向を読み取り、疑問や気づきを発表していきました。

子どもたちは、「なぜ、地元産があまりないのだろうか?」「産地の違いで育て方が違うのだろうか?」など積極的に発表し、この後、学習が盛り上がっていきました。

ところで、「青少年創造性開発育成事業報告書 2025」に少年少女発明クラブのこれまでの経緯や活動の様子が紹介されており、その中の巻頭メッセージに日本銀行欧州統括役の重本浩志さんの「発明クラブの思い出」が掲載されていました。重本さんは柳井市少年少女発明クラブの第1期生で本校の卒業生でもあり、40年以上前の発明クラブでの活動の記憶として、「不思議で興味深い事象に出会うチャンスをたくさんいただいた」と当時の印象を語られていました。

そして、「なぜだろう?」「どうしてだろう?」と自然に考えさせられ、「常識とは異なる着想の大事さと、ものごとの背後にはどうやら原理のようなものがあるらしい」と感じたそうです。



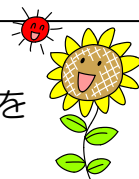
さらに、「発明と発見はいずれも先人の知見に基礎があるという共通点を感じた」ことや、「地道な取組の積み重ね、最後のひと踏ん張りが大きな違いを生み、時には大きなブレークスルーにつながることは、発明や発見に限らず、どんな活動でも同じではないか」ということも述べられていました。

いよいよ楽しい夏休みが始まります。子どもたちは、色々とやりたいことがあってワクワクしていると思います。好奇心を刺激し、考えるきっかけを与えてくれる様々な経験の積み重ねが、将来の社会活動に共通する基盤につながっていくことを願っています。

この度の懇談会では、お忙しい中、貴重なお時間をありがとうございました。お話しできたことを今後の指導に生かしてまいります。また、保護者の皆様や地域の皆様にはいつも温かくご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

「知恵いっぱい」「笑顔いっぱい」「元気いっぱい」

【1学期を振り返って】



様々な教育活動で、子どもたちの生き生きした様子から、めざす子どもの姿をたくさん感じられました。その一場面を紹介します。



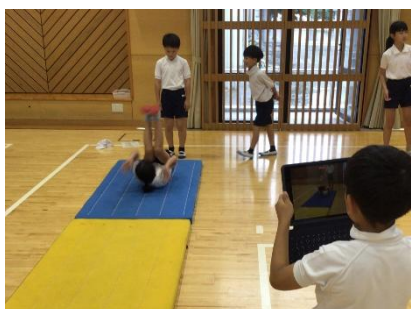
1年生は、学校にも少しずつ慣れ、友だちと一緒に遊具や運動場で元気いっぱいに遊んでいました。



2年生は、育てている野菜の様子を観察し、大きくなった実を嬉しそうに収穫していました。



3年生は、算数で少人数での学習がスタートし、新たな環境で一人ひとりが真剣に学習していました。



4年生のマット運動の学習では、子どもたち同士で動画を撮り、動きのポイントを確認していました。



5年生のリコーダーの学習では、楽譜を見ながらきれいな音色で吹けるように練習していました。



6年生の調理の学習では、包丁を上手に使って野菜を切り、友だちと協力しながら作っていました。

2学期の児童集会に向けて！

9月30日（水）に予定している児童集会に向けて、集会委員会を中心に準備を進めているところです。

この集会では、縦割り班での遊びを通して異学年の交流を深め、支え合う心を育んでいくことをねらっており、様々な楽しいゲームを集会委員会が企画しています。

そこで、この集会をさらに盛り上げるために、全校のみんなにも一緒に企画に関わってもらおうと、集会委員会がアイデアを募集しました。すると、たくさんのアイデアが寄せられました。

どんなに楽しい児童集会になるのか、今から楽しみです。



【昇降口に設置したアイデア募集箱】

